

みつばトーク



2018年9月よりインタビューシリーズ「みつばトーク」を開始することになりました。授業等でどのようにM2Bシステムを活用されているかについて、様々な方々にお話を伺っていきます。M2Bシステムを使ったことがある方にもない方にも参考になるような情報をお届けしていきます。

「ピアラクダ2」は簡単に相互評価ができるのでオススメです

基幹教育院・人文社会科学部門
三木 洋一郎 教授

私は、大学院で物理学(生物物理)を専攻し、研究者としてスタートしましたが、ちょうど20年前に物理の教員として医科大学に赴任したのを契機に、医学教育の分野に移っていき現在に至っています。それ以来、PBL(Problem-Based Learning)やTBL(Team-Based Learning)といったアクティブラーニングの手法で授業を改善する取り組みを続けています。

私が医科大学に赴任した頃は、ちょうど国内の医学部がPBLを盛んに導入していた時期でした。私のいた大学はPBLの導入に熱心で、そのための委員会のメンバーだったため、徐々に医学教育を専門にするようになったというわけです。5年前に九大歯学部へ赴任して、PBLやTBLの企画と運営に携わりました。1年ほど前に基幹教育院に所属を移し、この春に開設された共創学部の専任教員を担当しています。共創学部では、グループで協働学習を行う「協働科目」を開講する予定で、現在その準備を進めています。

グループ学習が非常に有益であることは間違いありませんが、その学習活動の評価は容易いことではありません。MoodleやMahara、ICTを活用して、より効果的かつ効率的な評価とフィードバックができるよう試行錯誤しているところです。



■どのような授業をしていますか？

歯学部では、「統合系科目」と称する一連の授業(2~6年次)で、PBLやTBLの企画と運営を担当していました。現在は、基幹教育院の教員として基幹教育セミナーと課題協学科目を担当しています。また、共創学部で来年度から始まる「協働科目」の企画・運営を担当します。

■M2Bを使い始めたきっかけは何ですか？

歯学部は以前から学習支援システム(Blackboard)を授業や定期試験、学内模擬試験で積極的に利用していました。立場上、これらのコンテンツの管理や開発を任されていたため、Moodleに切り替わる際に既存コンテンツを移植したり、新たな利用方法を模索してきました。また、前職時代から同僚とともに、TBLの小テストやピア評価にLMSやタブレット端末を利用する試みを行っていたため、九大でもこれに取り組んだ経緯があります。

医学部や歯学部においては、課題等に画像情報が多く盛り込まれているので、PCやタブレット端末を利用すれば、見たいところを拡大して見られる等のメリットがあります。しかし、これらの画像には患者の個人情報(顔貌写真やX線画像等)が含まれていることも多く、それを拡散しないようにコントロールしなければなりません。この課題を解決するため、九州大学教育の質向上支援プログラム(EEP)の助成で、授業開始時にタブレット端末を貸与してグループワークや小テストを行い、授業終了時に返却させる仕組みの構築に取り組みました。

■現在M2Bをどのように利用していますか？

共創学部では、1年前期の学部卒で「合同チュートリアル」と称する修学指導を行っています。基幹教育と同様に、この科目ではMoodleで出欠をモニターしたり、毎回Maharaで日誌をつけるよう指導しているほか、学生同士や教職員が学生たちの顔と名前を一致させられるように、顔写真とプロフィールをポートフォリオとして共有する取り組みを始めました。来年度に開講する「協働科目」では、資料や課題の提示、学修成果物の提出、自己評価やピア評価などをMoodle上で実施する準備を進めています。また、基幹教育セミナーでは、Moodleを出欠確認に利用しているほか、リフレクトシートを返却したり、グループの学修成果物（ポスターや黒板の記録）を写真に撮ってMoodleにアップし、学生が自由にダウンロードできるようにしています。さらに、Moodleのフォーラム機能を利用して、合同授業の実施場所や提出物などのリマインダを学生に流しています。

■オススの使い方はありますか？

Moodleの標準的な「活動」に「ワークショップ」があり、相互評価（ピア評価）に用いることができます。「ワークショップ」は多機能ですが、課題など何かしらの評価対象物がないと相互評価ができません。一方、ピア評価に特化したプラグインである「ピアラクダ2」は、学習グループを組んでおけば、評価対象物なしにピア評価を行わせることができます。数週に亘って同じグループで学習活動を行ったあと、メンバーのパフォーマンスを相互評価させたい場合に利用できます。「ピアラクダ2」では、「よい点」と「改善したほうがよい点」という二つの観点でコメントをつけられるようになっています。是非、使ってみてください。

■これからM2Bを使ってみたいと思っている方にメッセージをお願いします

毎回出欠を取っている授業なら、出欠チェックにMoodleを使ってみてはどうでしょうか。スマホからでもよいとすれば、学生もやり易いと思います。その際、“公正を保つため”と明確に説明したうえで、無線LANの接続先としてedunetを選択するよう指示することが大切です。

課題（宿題）をときおり課しているのであれば、Moodle上に課題をアップロードしたり、Moodleから提出させることは容易です。手書きのレポートでも、基幹教育セミナーの「リフレクトシート」と同様に、授業支援ボックス用のフォームを利用すれば、成績入力と返却がスムーズに行えます。このほか、Moodle上での小テスト実施もおすすです。多肢選択問題ならば自動的に採点されるので、授業中に実施するだけでなく事前学習用にも利用できます。また、アダプティブモードを使えば、回答を複数回トライさせて、中間点を与えることもできます*。

※ピアラクダ2を利用したピア評価の実施方法

1. Moodleのコースに、学習グループに対応するグループを作成します
2. 編集モードで「活動またはリソースを追加する」をクリックして「ピアラクダ2」を追加し、「締め切り」などを設定します
3. 学生にピア評価を実施するよう指示します
4. コメントをチェックし、必要に応じて修正します（辛辣なコメントなど）
5. 「全てのコメントを公開する」をクリックして、学生が結果を見られるようにします

(1) 他の学生を評価する		(2) 他の学生からのコメント	
評価者	総合評価	すばらしい点	改善するとよい点
評価者1	25点	チームをまとめてくれた。きちんと説明してくれた。	もう少し大きな声で説明してくれると嬉しいと思う。
評価者2	25点	わかり易く説明してくれるところ。	もう少し他の人の話に耳を傾けるといい。
評価者3	30点	いつもチームを代表して発言してくれる。	強いて言えば、もう少しみんなに仕事を任せてもいいかも。
評価者4	28点	議論が...	

ピアラクダ2（学生の画面の例）

〔聞き手：木實新一（基幹教育院教授・LAセンター長）〕

* 授業支援ボックスや小テスト機能の詳細については、M2B学習支援システムの教師用マニュアルをご覧ください
(https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/pluginfile.php/232271/mod_resource/content/19/manual.html)